

番組審議会議事録

日時 令和7年9月25日（木）13:30～
場所 萩テレビ株式会社 会議室
出席者 審議委員6名 会社側3名
三浦正之、柳林浩一、牧野泉、大平憲二、北川秋穂、藤田賢治郎【委員】
梶野晴彦【会社側】
欠席者 小川真綾（委員）

議題

[1] 会社側の報告等

- ・近況報告
- ・今回の審議番組について説明

審議番組：「たまち土曜夜市」（令和7年7月5日 18:00～20:00）

スタジオ：久保田 桂子

レポーター：ぶるぼん・蔵本 江理

○番組内容：7月5日（土）田町商店街では、7月の毎週土曜日の18:00から『たまち土曜夜市』を開催。

屋台はもちろん金魚すくい、ヨーヨー釣り、輪投げなどが体験でき、昔ながらの緑日を思い出す夜市で、焼き鳥や生ビールなどの屋台も多数あり、中学・高校生や家族連れなどたくさんの市民が集まる。

この生中継特番では、臨場感のあるリポートで、『たまち土曜夜市』会場の様子を伝えていく。

来場者・イベント参加者へのインタビューも実施。イベントの詳細をタイムリーに発信。

中継とスタジオとの2元中継を実施することでより詳しい情報をリアルタイムに発信。

地元に着したイベントに参加し、地域の方と一緒に生放送特番を創っていくことで、祭り会場を盛り上げていく。

[2] 番組内容の審議

次のような意見があった。

- ・ スタジオのパーソナリティの声が明るくてよかった。
- ・ イベントや田町のお店の紹介もあり、まつりの様子が伝わった。

- 今までの夜市のお話しやインタビューもあり、よかった。
- ダンスイベントの紹介の際に音が大きくなったりして臨場感があった。
- 現場とスタジオを久保田さんがうまくつないでいて、やり取りも面白かった。
- 全体的に明るくて言葉も明瞭。レポーター通しの仲が良いのも伝わってきた。
- 生特番らしく臨場感あるにぎわいを演出していた。
- クラモさんとぶるぼんさんのレポートが対称的で楽しく聞くことができた。
- 番組冒頭の「土曜の夜は田町があつい」のキャッチコピーが印象的だった。
- これからのスケジュール・駐車場・駐輪場の案内があり、初めて聞く人やこれから会場に向かう人にとって大切な情報を伝えていた。
- ぶるぼんさんはさすがに芸人だけあって。声が大きいこともあり、人を引き付ける魅力があることが伝わってきた。
- くらもちゃんのインタビューは手慣れた様子で、上手に相手の言いたいことを引き出していた。
- レポーター2人は広い範囲で紹介していた。特に学童・中学生・イベント参加者・観客へのインタビューは、土曜夜市に行ってみたくなる内容だった。
- 番組締めくくりに2人のレポーターの感想が伝えられたが、子供たちが楽しんでいる、そして賑わっている様子が分かり、土曜夜市がとても良いおまつりであることが伝わってきた。
- 会場レポーターの音声は明瞭に伝えられていた。しかし僅かではあったが、電波が途切れたり、不明瞭になったりしたことは残念であった。
- スマートフォンのマイク特性で現場の音を拾うのは難しいと思うが、会場の様子が音声でもう少し伝えられたらと思う場面があった。
- ブックカフェの情報を聞いて一度足を運んでみたくなった。
- 山下理事長のインタビューでは、主催者の思いがよく伝わっていた。
- スタジオのパーソナリティが進行役をしながら安定感ある番組づくりをしていた。
- 現場とスタジオのやり取りが軽妙で、現場での発言をスタジオで復唱・補足するなど、リスナーにとってとても聴き易い構成になっていた。
- 番組冒頭での現場の紹介とレポーターのこれまでの土曜夜市の体験や現場の様子が話され、番組に引き込むよいきっかけになっていた。
- 毎年恒例の田町土曜夜市だったが、思った以上にイベントが盛りだくさんであること、主催側の思いが詰まった催しであることなど、番組を通して再発見することができた。
- 臨場感のある中継とスタジオでの受け止め(情報のまとめ直し)という構成が、飽きずに聞ける心地よさにつながっている。特に番組後半になるにつれ、3人の掛け合いが軽妙になっていき、聞いていて楽しい番組だった。

- 中継は音がこもって聞こえることがあった。中継冒頭に話題となったぶるぼんさんの声量の大きさはあまり伝わってこなかった。
- 中継冒頭の七夕短冊企画から端を発して、レポーター２人の願いごとで番組が締めくくられていた。季節感のある、大変よい締め方だと思う。
- 来場者へのインタビューで、子供たちがかき氷や焼鳥が大好きと話していた。コロナが収まってきて、飲食が屋台でできる有難さを感じることができた。
- 番組の最後に、集まった人たちの笑顔がとてもよかったとの話で締めくくられていて、自分もその場にいるような楽しい気分になった。

<会社側からの回答>

- これからも市民が聞いて役立つ情報発信及び新しい番組の企画に努めていきたい。

[3] 次回開催について

今回は、令和 7 年 1 1 月に開催することが決まった。

新たな審議委員を迎えての開催となることから、日程は後日各委員と調整して決定することとし、審議番組は特定しないこととした